

今年、ロートアイアン製品の検品と建材展の見学のため天津市を訪れた。天津は中国第3の都市だが、少し前までは北京、上海にくらべて都市開発が遅れてい



たそうである。しかし、2008年のオリンピック開催（メイン会場は北京だが、天津開催の競技もある）と新しい天津市長により、現在急ピッチでインフラの整備、住宅の建設が進んでおり、街中どこもが工事現場といった感じである。土地が国有であるため、道路の拡幅も立ち退き等がスムーズで（強制的？）であるため一気に進んでいくのは日本との大きな違いである。

また特に驚いたのは、大規模な宅地開発プロジェクトになると、敷地内に大きな池や運河をつくり、その水辺に戸建住宅や高層住宅が立ち並ぶといった計画が多いということだ。土地は広大であるので、いくつでも大きな建築を建てることはできるのだが、この水際を配置していることは、住まう環境の中に、潤いと視界というものを重視していることであり、大変共感をもった。また、巨大な池の中央に中島をつくり一戸建群を配したものは、高層マンション群の中にあって特に上質な環境を確保していた。

こういったプロジェクトの内、分譲中のものを見学する機会があった。広い敷地内に日本と同じような（豪華さは日本以上か）のショールームがあり、全体模型やパネル展示がされていた。もちろん専属の営業マンが待機しているのは日本と同じである。中層の集合住宅を見学したが、メゾネットタイプ（2フロアにわたるもの）で広さは45坪～50坪とマン

ションとしては広めであった。

中国でのマンションの売り出し価格は一般的に1㎡当たり400～800元（約6万～12万）なので、グレードの高いものは2,000万円を超える（水辺の一戸建では1億円のものもある！）。物価や労働賃金が日本の1/6～1/8であることを考えるとかなり高価である。

実は今、天津もバブルに突入しており、不動産投資がブームになっている。「あのマンションは去年の秋から100元値上がりした」とか「中心街のテナントビルのフロア一部を買って、お店に貸す」などという話がよく聞かれる。もちろん、こういった人たちは安定して比較的高い賃金を得ているのだが、そういう階層がかなり拡大しているということである。

また一方、低賃金者層は依然として多い。そのため人件費がとにかく安価で、建設現場を含め、日本では考えられない光景に出会う。高層ビルの外壁や排水の枡を手作業でひとつづつレンガを積んでいるのである。

こういった格差の広がりなど、様々な問題を抱えつつ、中国はこれからダイナミックに変貌してゆくのだと実感した旅であった。



手作りの排水枡